

### 3-11. 杉堂地区

#### 1. 地区の概要

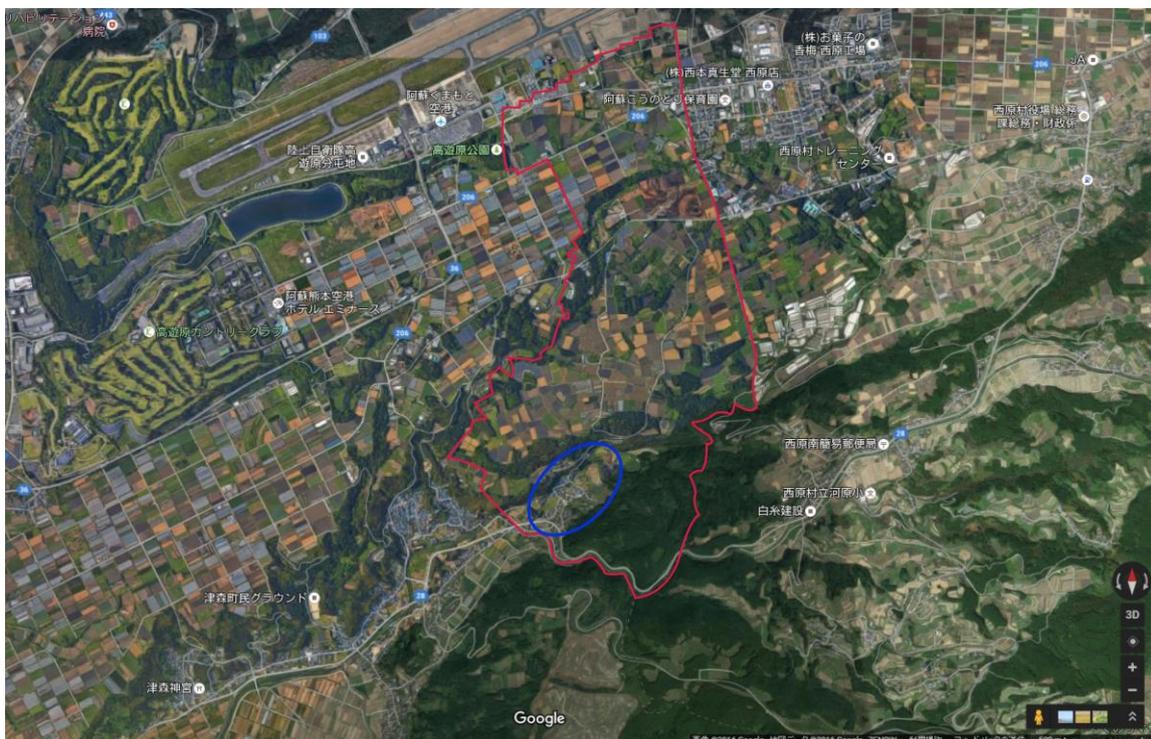
##### (1) 位置・人口等

###### ■位置

杉堂地区は益城町の最東端に位置し、西側は小谷地区に、東側は阿蘇郡西原村に、南側は上陳地区にそれぞれ接しています。

集落は熊本市と高森町を結ぶ県道 28 号線を軸に、主に県道の北側に広がっており、この県道が住民の移動には欠かせない交通路となっています。

集落は、北東から南西に流れ木山側に合流する布田川が形成した谷の斜面地にあり、高低差のある地形となっています。集落の北側の台地上は耕作地（畑）、南側は山地となっており、緑に包まれた地区です。



※赤線は大字界、青線円は杉堂集落を指す。

図 杉堂地区

###### ■人口等

平成 29 年 3 月末日の住民基本台帳によると、杉堂地区の人口は 255 人、世帯数は 100 世帯となっています。

平成 25 年から 29 年までの 5 年間の人口・世帯数の推移をみると、平成 25 年から 26 年の間に人口及び世帯ともに 4 % 程度の減少がみられたものの、その後はほぼ横ばいの状態でした。

しかし、震災後の 1 年間で人口及び世帯数ともに前年比で 7 % 減少しています。

表 杉堂地区の人口・世帯数の推移（平成 25 年～29 年）

	平成 25 年		平成 26 年		平成 27 年		平成 28 年		平成 29 年	
	人口	世帯数								
杉堂	288	110	277	107	276	105	275	107	255	100
(H25 を 100 とする指数)	100	100	96	97	96	95	95	97	89	91

資料：各年 3 月住民基本台帳人口・世帯数

## (2) 被害状況

本区が属する津森校区における建物被害状況を見ると、本区の住家建物全壊率は約半数にのぼり他地区と比較して顕著に高くなっています。

表 津森校区内字別被災状況（住家）

	住家					計
	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	無被害	
大字寺中	16	6	41	71	1	135
大字田原	31	12	42	63	1	149
大字小谷	28	30	47	92	2	199
<b>大字杉堂</b>	<b>47</b>	<b>8</b>	<b>20</b>	<b>22</b>	<b>4</b>	<b>101</b>
大字上陳	40	12	25	38	0	115
大字下陳	11	11	26	95	0	143

	住家					計
	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	無被害	
大字寺中	12%	4%	30%	53%	1%	100%
大字田原	21%	8%	28%	42%	1%	100%
大字小谷	14%	15%	24%	46%	1%	100%
<b>大字杉堂</b>	<b>46%</b>	<b>8%</b>	<b>20%</b>	<b>22%</b>	<b>4%</b>	<b>100%</b>
大字上陳	35%	10%	22%	33%	0%	100%
大字下陳	8%	8%	18%	66%	0%	100%

## (3) 地区の課題

- ・震災前は人口・世帯数はほぼ横ばい、震災で大きな減少
- ・公共バスの運行が停止中
- ・上古閑地区は 4 m 未満の狭あい道路、その他も幅員 4 m 以上の区間は少ない。

## 2. 地区の基本方針

杉堂地区は、被災前から徐々に人口減少と高齢化が進行していました。

これには多くの要因が重なっていますが、一つには、集落全体が斜面地上に形成されており、熊本県のがけ条例（熊本県建築基準条例第2条）や土砂災害特別警戒区域（いわゆるレッドゾーン）の建築制限により住宅建設に一定の条件が課せられ、若い世代が集落外に出て行ったことも考えられます。

このため、今後は若い世代が定着するよう安全で住み良いまちづくりを進め、皆が安心して楽しく暮らせる杉堂にしていくことが住民一人ひとりの願いとなっています。

### 【まちづくりの目標・まちの将来像】

**“若い世代もみんな楽しく暮らせる 安全で住み良い杉堂”**

### 3. 避難路・避難地の計画

#### <避難地>

避難地については、潮井神社及び潮井公園に近い空地において、災害時の一時避難場所を整備します。

表 避難地の整備の概要

公園名等	整備内容	拡張等	整備の内訳			概算 事業費
			延長	幅員	面積	
			(m)	(m)	(㎡)	(千円)
一時避難場所	地区公共施設(避難地)	新設			1000.0	17,100

# 杉堂地区



図 避難地計画図